

私たちの町の文化財

■第10話 北岡神社

「北岡神社境内には、古墳がありました。」とは、第9話のお話ですが、北岡神社そのものも、周辺の歴史話において欠かすことのできない要素です。社記によれば、肥後に国司として赴任した藤原保昌が承平4年（934）に京都の八坂神社（祇園社）より、御分霊をお迎えしたのが始まりとされています。当初は今の二本木5丁目付近に創建されたようですが、その後二本木2丁目付近に移り、天元2年（979）には朝日山に移られたそうです。朝日山は現在の花岡山のことです。「花岡山」という名称は明治時代に改められたものなんですね。今でも花岡山山頂一帯に祇園平という遺称があります。また現在地には江戸時代になって、細川氏により遷座されました。

さてさて、そもそもこの北岡神社（祇園社）はなぜこの地にあるのでしょうか？肥後国の政治を行う時の国司は、逆賊の反乱や疫病の流行を鎮めるために府中の守り神として神社をお祀りしたとされています。

「府中」??・・・そう、国の政治や経済の中枢を司る役所である国府のことです。つまり二本木界隈にあった国府の、また肥後国の安全祈願のために祀られた神社なのです。国府があったであろう二本木の地は、四方に山や川などの要素が揃う四神相應の地とみられ、その一方を担う北の山（岡）から、国府の安全を見守っていたのでしょ

熊本市文化振興課 原田範昭氏

国府の安全を見守って
いたという北岡神社、
たこの山頂に建てる
丘なるほと見晴らしの
なるほと見晴らしの
丘なるほと見晴らしの
丘なるほと見晴らしの

